

(その後、ヒロインの手記)

≡正面傍

(淡々と本を読むような感じ)

その後、山小屋での惨劇が全て、現実起こった事だと悟った私は、幾度となく自殺を試みるも、家族に止められ、未遂に終わる。

あの日以降、人とともに接する事の出来なく私は、手あたり次第周りに当たり散らし、見るに堪えない両親から療養施設に入所させられた。

そして入所後すぐに妊娠した事が告げられる。

相手は勿論、山小屋でさんざん私の事を弄んだあの男以外ありえない。

両親は人口妊娠中絶を強く進めるも、目の見えない私を選んだ赤ちゃんに罪はないのと、生きる事に絶望していた日々挿した一筋の光に、産むことを決断する。

ちなみにあの日、私の事を引率していた先生はその後、責任を取るよう学校を辞め、姿をくらました。

一時期はマスコミが面白おかしく風潮し、週刊誌やワイドショーを賑わした事もあったが、今となってはそれも昔の事。

だから、この手記はかつての惨劇が風化しないようにと、妊娠中に書き溜めた日記をまとめたものである。

(少しの間)

≡右耳傍

最近は気晴らしのためにネットニュースを聞く事が日課となっている。

そんなある日、何気なく耳を傾けていたら気になる記事が流れてきた。

それはあの日の惨劇が実は動画で撮影されており、とある闇ルートから流出したという内容だった。

悲痛なまでの生々しい叫び声と、見るに堪えない悲惨な様子は、瞬く間にネット中を駆け巡り、一部のマニアックな人達からは神動画と賞賛されているという。

しかし、中には否定的な意見もあり、特に多かったのがカメラアングルについてだ。

本来、強姦モノはリアリティを追求するため、自撮り風になりがちだが、その映像は明ら

かに第三者が撮影した物らしい。

あの日、あの時、あの場所には私とあの男しかいなかったのだから、これは偽物に違いない。

≡正面傍

そう思っていた私の頭の中にふとある疑問がよぎった。

本当にあの場には私とあの男しかいなかったのだろうか。

本来であれば、一目でわかるものだが、目の見えない私にはそれがわからない。

もしかしたら、あの小屋には一言も発しないで物静かにしていた人物がもう一人いたのではないだろうか？

そしてその人物はあの男と共犯共謀して、私が襲われている様子を終始目撃しており、更には動画まで撮影していたのではないか。

普通に考えればそんな事はないが、私には一つだけ心当たりがある。

それは目の見えない私を小屋に置き去りにした上、いつまで経っても戻ってこなかった人の存在。

(少しの間)

≡左耳傍

話は変わるが、時折、差出人不明の現金が家に届く事がある。

私の事を不憫に思ってる人のやさしさなのか、はたまたどっかの誰かの罪滅ぼしのためなのか。

真相はわからないし、別に知りたいとも思わない。

ただ、そのお金に手を付ける気は無く、いつか将来何かのボランティア団体に寄付しようと思っている。

今でも目を瞑ると、あの時の記憶がフラッシュバックする事があり、そんな日は決まって身体が火照って眠れなくなる。

恐らく私にはもう二度と平穏な暮らしが訪れる事は無いのだろう。

(少しの間)

『山小屋で盲目ギャル JC とエンカウトしたらどうするか、犯るでしょ！』  
台本データ 北川 若葉(ヒロイン)用 Track06

≡正面傍

この手記を最後に私は表の世界からいなくなろうと思う。